

てくてく
古道を歩こう

いちかわみち

市川道

富士見編

その1



笛吹市教育委員会
文化財課主催

散策コース



駐車場スコレーパリオ前

★スタート・・・清流公園

※出発前には必ずトイレをご利用下さい。

- 1・小石和の庚申塔、六地藏石幢
- 2・諏訪神社（すわじんじゃ）・小石和の公民館
- 3・五本辻（ごほんつじ）
- 4・成就院（じょうじゅいん）※トイレあり
- 5・砂原の子安地藏
- 6・砂原北組の道祖神
- 7・見性院（けんしょういん）の石造地藏菩薩坐像
- 8・砂原の大神社（石尊神社）
～馬頭観音・道祖神～
- 9・河内下組の道祖神
- 10・佐久神社（さくじんじゃ）参道前 石幢
- 11・佐久神社※トイレあり
- 12・昌隆寺（しょうりゅうじ）
～六地藏・万霊塔～
- 13・丸石道祖神
- 14・延命院（えんめいいん）
～地藏・六地藏石幢～



★ゴール・・・・清流公園

※トイレがスタート地点の清流公園、成就院、佐久神社の3ヶ所しかありません。その他緊急の場合は職員までお声かけ下さい。

市川道（いちかわみち）

市川大門は武田信玄が活躍した戦国時代から宿場町として栄えた町で、甲斐源氏発祥の地とも言われています。古くから和紙の生産が盛んで、今に続く和紙の里にもなっています。現在も市川大門産の障子紙は全国シェアの40%を占めています。美人の肌のように美しい事からその名が付いた「肌吉紙（はだよしがみ）」は戦国時代から江戸時代にかけて保護されてきました。その紙漉の中心は「本衆」または「肌吉衆」と呼ばれ、名字帯刀と諸役免除を許された特権集団でした。「本衆」を中心に漉き手の家は250軒にも及んだと言われています。

市川大門は「花火のまち」としても有名ですが、元禄～享保年間ころ紙工・甚左衛門の命日に打ち上げられた事に始まると言われています。現在では、三河吉田・常陸水戸とともに日本三大花火の一つに数えられるほどに成長しました。

市川大門宿は駿州往還のほか中道往還へ通じる脇道もあり、交通の要であると共に周辺地域の商業的中心地でした。甲府盆地各地から市川大門へ向かう道は「市川道」と呼ばれ、①石和からの道②八代からの道③芦川からの道④西郡からの道⑤竜王からの道がありました。

市川に住んでいる人はいったい何て呼んでいた道なのだろうか？



(2)

1. 小石和の庚申塔・六地藏石幢

所在地（小石和字神明 539 番先）

○庚申塔（年代 明和 8 年 1771 年）
高さ 50・巾 21 奥行 15）

○六地藏石幢（年代不明）
高さ 130・幢身廻 156）



庚申塔とは何・・・？

道教の教えでは、人間の体内に三尸（さんし）と言う三匹の虫がいて、旧暦で60日に一回巡ってくる庚申（かのえさる）の日に宿主の体内を抜け出し、天に昇って天帝に宿主の日頃の行状を報告する役目をしています。その報告によって天帝は宿主の寿命を短くしてしまいます。翌朝目を覚ます前にはこの三尸は体内に戻っています。

これは、とても恐ろしいことです。宿主があることないこと告げ口されて、寿命が縮まってしまうのですから。それで、庚申の日になる前日から集団で徹夜をし、三尸を体内から出さないようにし、長生きすることを願う風習がうまれました。虫封じのために庚申の夜みんなで集まって徹夜して、この庚申（講）を3年18回続けた記念に建立したのが庚申塔（正式には庚申待供養塔）です。

日本では奈良時代から始まり、平安時代には、貴族の間に広まり、『枕草子』『大鏡』などに記述があります。この教えが広まっていく中で仏教や庶民の信仰が加わり、江戸時代には全国の農村などで大流行し、各地に庚申供養がされた証として、庚申塔が盛んに建てられました。塔に猿が彫られているものがありますが、「見ざる・言わざる・聞かざる」の猿から来たもので、「災いが去る」という言葉に例えたそうです。



六地藏石幢とは何・・・？

六地藏石幢は、石造六地藏幢ともいって石幢の龕部（がんぶ）または幢身に六地藏を彫ったものです。笠塔婆の竿石を六面または、円柱に造り竿石と台石を沿えたもので、宝幢式笠塔婆ともいわれ、笠塔婆の一種として分類されています。

単制と複製に大別されます。単制は、基礎の上部に六地藏を彫った六角柱か八角柱または、円柱の幢身と笠（無いものもある）を置いたものです。

石和町内の六地藏石幢には、単制は少なく、小石和の成就院門前にあるものふたつだけです。

複製は、基礎の上にやはり六角柱か八角柱あるいは円柱様の幢身（竿）を立て、その上に中台を置き、仏像を安置する仏具である厨子からきた龕部をのせ、笠、宝珠を置いたものです。

石和町内にある複製は、龕部と笠だけといった欠損のものが多いのですが、部分的には修復されながらも、いくつかの六地藏石幢が、今も尚そのまま路傍に立佇んでいるところもあります。（六地藏幢は南北朝時代（1336年～1392年）頃からあらわれ、六地藏信仰とともに普及してきました。古いものは大型で立派なものが目立ちます。）

なぜ地藏が6体彫られているの・・・？

地藏は閻魔大王の真実の姿であると考えられていました。善悪の業によって輪廻転生する迷いの世界を（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天）と考え、これを六道（りくどう）といいます。

平安時代の末期には、この六道を輪廻転生する人々を救済するのが地藏だと考えられ、六道それぞれを、地藏にあらわすようになります。

この地藏の名称や像形はいろいろな説がありますが、「仏像図絵」によれば・地持地藏（ちじ護讚地藏）・陀羅尼地藏（だらに弁地藏）・宝性地蔵（ほうしょう破勝地藏）・鶏亀地藏（けいき延命地藏）・法性地蔵（不休息地藏）・法印地藏（讚竜地藏）の6地藏があらわされています。このような六地藏信仰が広がり六地藏幢がいたるところに造られ信仰されるようになります。

小石和の公民館所在地（小石和414）

公民館は、各会員宅で例会を開いていたものがはじまりです。その後、農事懇話会会員が増加し、出来なくなりました。このことから、集いの場所の建設気運が高まり、部落全体の人達が生活向上のためと希望し、昭和23年、まだ石和町ではなく富士見村だった頃に設立されました。県内でも3本の指に入る早い時期の建設だったため、注目を浴び富士見地区の公民館建設の先駆けとなったようです。

小石和という地名について

石和五郎信光が甲斐の守護になった時、屋形のあった市町村と川田村の地を石和と称したため、石和郷と区別するため小石和となったといえます。

※石和は石禾と書き『三代実録』という平安時代の記録の元慶8年（877）この土地に住んでいた清原真人という人の田に良い稲が実り、大変めでたいという事で、今後は石禾にするようにと時の天皇から受け賜ったということからきています。石沢、伊沢、胆沢、井沢等とも書きます。「わき水の湧く沢を持つ所」という意味からきています。

2.小石和の諏訪神社

所在地（小石和 412）
名称 船形神社 正一位諏訪神社
所祭 建御名方命
相殿 稲田姫の命 須佐之男命
少名彦命
建物 本殿 拝殿 隨身門
勧請鎮座 不明
勧請由 天皇朝廷天下泰平水難除
五穀成就万民安全

石和川の水難を鎮めるために、その昔、信州上諏訪より勧請したといえます。かつては今の笛吹川の流路は石和川が流れていたなので、石和川神社、舟形神社、馬蔵神社と称したとも言われています。

○馬蔵神社の由緒・・・

武田信光がお参りに来た時乗ってきた葦毛の馬を林の中に隠したという話からのようです。

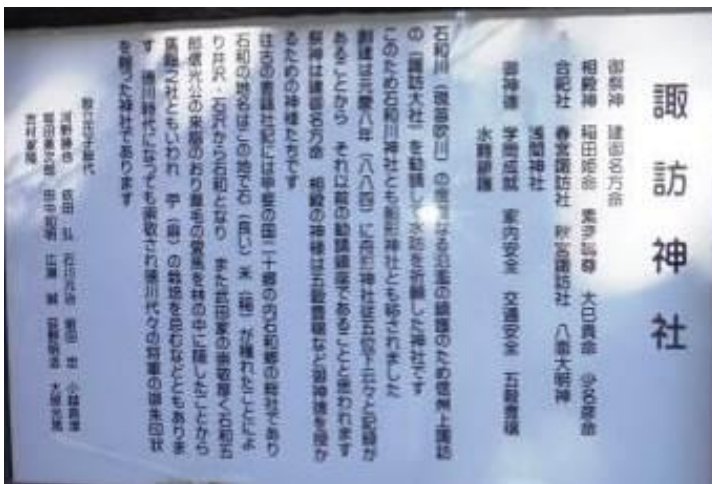
○武田信光とは・・・

信義の五男、一条忠頼の弟で、甲斐武田氏の第5代当主です。石和荘に居館を構え石和五郎信光と称し、石和八幡宮を勧請したと言われています。武田家を継ぎ戦国時代の信光の系統が代々、甲斐の守護になり、後の信虎・信玄・勝頼の戦国時代の武将、武田三代に繋がっていきます。



(7)

自画像などが残されていないので、分かりませんが、ちまたのゲームでは、こんな顔で登場しているようです。



諏訪神社の石仏

- 石祠（文化 12 年 1815 年）
- 東照大権現（嘉永 6 年 1853 年）
- 天神（弘化 5 年 1848 年）
- 春宮（明治 18 年 1885 年）
- 産護神（文久 3 年 1863 年）
- 馬頭観音 2 体（不明）
- 地藏（文久 2 年 1862 年）
- 大神宮（明治 27 年 1894 年）
- 庚申塔
- 六地藏石幢（元禄 2 年 1689 年）

合祀社（ごうししゃ）

に祀られている神様・・・

○八面名神 祭神 須佐之男命
大己貴命（オオナムチノミコト）

往時は前の小路に鎮座 新道の為移転

○富士浅間神社 祭神
木花咲耶姫（コノハナサクヤヒメ）

往時は才蓮寺にあったとされている。蓮朝寺の辺りの場所が該当すると考えられる。諏訪神社祭の御輿が石和川を御渡とき寄り所との記述あり。

○春・秋宮諏訪下社
祭神 八坂刀売神（やさかとめのかみ）

現在は合祀社に春・秋宮とも祀られています。春宮は諏訪神社境内に、秋宮は今も上町屋の方々によって、祭もおこなわれています。



諏訪神社は、全国一万余の諏訪神社の総本社である長野県の諏訪大社を勧請したのですが、諏訪大社は上下二社を併せて一社を形づくっています。上社は茅野市の前宮と諏訪市の本宮からなり下諏訪町の下社は春宮・秋宮からなっています。この下社の祭神八坂刀売神は建御名方神の妃神といわれていますが、2月1日から8月1日まで春宮にそれから1月末まで秋宮に在社するということです。

●東照大権現（トウショウダイゴンゲン）・・

徳川家康のことです。元和2年（1616年）、駿府城にて死去、享年75。その亡骸は駿府の久能山に葬られ（久能山東照宮）、1年後に下野国日光（現・栃木県日光市）に改葬されました（日光東照宮）。家康は薬師如来を本地とする東照大権現として神格化され、「神君」、「東照宮」、「権現様」とも呼ばれて、信仰の対象となります。また、江戸幕府の祖として「神祖」「烈祖」などとも称されます。

●天神・・天神様といえはすぐに菅原道真を思い出しますが、道真が祀られる前は、多くの土地に天くだる神としてあり、天神信仰は怨霊が御礼信仰や雷神信仰と結びついて成り立っていったそうです。室町時代以降は学問や詩歌の神として多くの人々に信仰され今日に至っています。江戸時代以降「天神講」という講が結成され、「天神講」の日は、習字を奉納する子供たちの祭りとして盛んに行われました。

この天神には銘文の神主石禾直宿清原庸明の文字がはっきりと読み取れます。禾は和であり、石和の名称の発祥の地であるという説や、元慶8年（883）に嘉禾「よいいね」がとれたとの報告が明朝にあり、これによって石禾の地名を賜ることになったという説もあるそうです。

●大神社・・伊勢信仰にもとづくもので、伊勢講の全員の代参（議員の代表として参詣すること）が終わったときなどを記念して造立しました。

3.五本辻

若彦路と市川道が交わり、さらにもう一つは、唐柏に行く道です。今では五本辻の名残は、ほとんどなく、商店の名前だけとなっています。かつては人々が往来して賑わったのでしょうか。この辻には、最近まで大きな杉の木が数本あり石の祠が道南の所がありました。今は諏訪神社に移転されています。

○ ↓ 若彦路



○ ↓ 市川道



若彦路

(わかひこじ)は、甲斐国(山梨県)と駿河国(静岡県)を結ぶ街道のひとつです。江戸時代後期に編纂された『甲斐国志』巻之一堤要部・巻之四十一古跡部に拠れば、甲斐九筋のひとつに数えられる古道で、駿河へ至る官道であったといえます。「若彦」の呼称は日本武尊(ヤマトタケルノミコト)の子稚武彦(ワカタケヒコ)王に由来するといえます。甲斐国から駿河国へ向かう街道には若彦路のほか、御坂峠を越えて駿河国横走に繋がる御坂路、富士川沿いに南下する河内路、右左口峠を超えて富士東麓を南下する中道往還が存在します。



4.六角山成就院 浄土甲府瑞泉寺末

所在地（小石和字後田 372）

永享 10 年（1483）、甲斐の国の守護になった武田家 14 代当主武田信重の館があったと伝えられています。信重は、八代町にある小山城の城主の穴山伊豆守に攻められ、宝徳 2 年（1450）に自害します。信重の死後に、子どもの信守が父の菩提寺として館の一角に成就院を建てました。現在は、浄土宗です。成就院とは、信重の法名「成就院殿巧岳道大居士」からきています。年月は分かりませんが、のちに心譽円通が再建して、円通院とも呼ばれていた時期もあったようです。



成就院には市指定文化財がたくさんあります。

○武田信重の墓・・・

昭和 44 年に石和町指定文化財になりました。信重の自殺の場所と伝わる場所が、寺の東北の畑中で、その場所に信重の墓といわれる五輪塔があったそうですが、後に境内に移されたそうです。46 年には墓の修復と共に新たに供養塔が建てられました。

○閻魔王と十王像・・・

境内に閻魔堂があります。この中に市指定文化財の閻魔大王と十王像があります。1661 年（江戸時代）製作と推定されています。高さ 94 センチ、目は水晶です。明治 40 年の水害の影響もあり、十王像は首部のみで、数も揃っていません。

※仏教では、人が死んだらあの世で十人の王（十王）によって人として正しく生きたかどうか順番に裁かれたうえ冥土の何処に住むかが決められるという教えがあります。裁きは初 7 日～3 回忌まで続けられます。

六角山入口から境内の石造物

- 地蔵さん ○六地藏幢 2 体 ○馬頭観音○道祖神
○閻魔王像・十王像 ○地蔵堂



← 六地藏石幢（単制のもの）
町内には 2 つしかない珍しいです！
石和町小石和地内（成就院門前）

5.砂原の子安地藏

所在地 砂原字青木 81 番先

子安地藏とは、妊婦の安産を祈願する地藏尊のことです。文字碑の石塔で古道の一隅にひっそりと立っています。



MEMO

昔は、左の写真の子安地藏だったようですが、いつからか、上の写真の少しスリムな子安地藏に変わったようです。

(14)



6.砂原の北組道祖神

所在地 砂原字青木 108 番先



寛政 3 年
(1791 年)



道祖神は、村などの集落の境あたりに置かれ、疫病といった災厄が集落に入らないよう祀られた、村の守り神です。

当然、村の繁栄すなわち、子孫繁栄を願う対象ともなります。

近世以降は路傍に置かれているために旅などの交通安全の神としても信仰の対象となっています。岐（ちまた）の神、衢神（ちまたのかみ）とかかかっているものもあります。

このようにさまざまな性格が合わさった神であるが故に、その姿も多種多様です。

だいたい台石に丸石を置いたもので、石和地内だけでも 49 体も発見されています。

今回の砂原の北組道祖神は、子孫繁栄の神としての性格を帯び、男根石がある道祖神です。このことから道祖神は、子授けの神様としての信仰もあります。

7.向富山見性院

所在地 砂原字才之神

永禄 2 己未年（1559）創立。もとは、石和観音寺末にて
覽性院といった能屋和尚の開山。

本堂二間一二間 四坪。

厨子入り三十三観音を安置する。



お地藏さんが手の上にのせているものは、何か知っていますか？如意宝珠（にょいほうじゅ）といます。如意宝珠とは、球形で頭がとがっていて、火炎が燃え上がっている形をした玉のこと。欲しい物が思いのままに出せるというすぐれもの。一切の願いが自分の思いのままに叶うという不思議な宝の玉の意で、民衆の願い事を成就させてくれる仏の像の象徴とされています。

みなさんご存知の一寸法師の打出の小槌や、アラジンの魔法のランプのようなものと言えます。

8.大神社（石尊神社）

所在地 砂原青木畑

祭神・大山祇命（おおやまずみのみこと）

社殿・本殿及び拝殿兼用入母屋造鉄板葺
二間一三間

祭日・毎年社日 御湯花の行事執行

～石造物等～

●蚕影山（昭和 46 年 1971）

○石尊（享和 3 年 1803）

○秋葉山



●蚕影山・・・養蚕の守り神である蚕の神を祀るために造られたもので、本体は茨城県の筑波市にある蚕影神社だと言われています。養蚕は農家にとってとても重要な経済活動であったこともあって、蚕のことを「おぼこさん」「おかいこさん」あるいは、「おこさま」「とうとさま」「姫」などと呼んで敬い、蚕の神を祀りました。なお蚕影山は、石造物の中でも比較的大きく「蚕影山」と刻まれた文字の蚕は旧字体である「蠶」だったり、「神」という字の下に「虫」と書いて「蚕」と読ませる場合もあります。蚕影山は養蚕の神様ですが、道祖神信仰も養蚕の神様にもなっていることから、蚕影山と道祖神が一緒に祀られているところも多くあります。

大神社は石尊神社ともいいます。 石尊神社とは・・・？

石尊は、神奈川県にある霊山として名高い大山の神体であると言われていています。別名「雨降山」とも呼ばれ、恵みをもたらすことでも知られていた大山には、大山寺と阿夫利神社があり、明治の神仏分離までは石尊大権現と称し古くから修験道の道場として栄えていました。

この修験者たちによって大山信仰は広められ、江戸時代から庶民の間に普及しはじめ、各地に「大山講」や「阿夫利講」といった講がつくられました。

町内にもいくつかが講ができ、講には村内の全戸が加入し、決められたお金を出し合い、大山に代参する人たちの費用にあてたということです。

笛吹市内には、石尊と刻んだ石塔が各地に残っています。石尊さんといって広く信仰されています。



歩いている途中に 富士山ビュースポットもあります！



※ 笛吹市のどこからでも富士山が眺められるわけではありません。富士見地区だからこそです。富士見とは、その名の通り、富士山が見える場所という意味で名づけられています。そのため、富士見地区では、あらゆる場所から富士山を見ることが出来ます。

MEMO

9.河内区下組中 道祖神

所在地 河内字窪 214 番先

○道祖神（大正 9 年 2 月 1920 年）



山梨には、ほかではあまり見ることの少ない、地域に伝わるここだけの古き文化が息づいています。この伝統的信仰のひとつが丸石道祖神です。球体の石を祀った道祖神は全国的にはとても珍しいといわれています。しかし、山梨県内には 700 ケ所以上もあります。形状も単体で祀られているもの、大小の丸石が複数で祀られているもの、同じぐらいの大きさの丸石が集合して祀られているものなどさまざまです。その成り立ちは謎に包まれており、昔の人は、川から流れてきた自然石の丸石に何らかのパワーを感じとって神格化したとも言われています。未だ解明されていませんが、丸石は自然石から、人工的に造られたものまで時代と共に変化していったと言われています。昔から地域で大切にされ、日々の暮らしに根付いています。集落の入口や道の分岐点、神社の境内、道路わきなどに祀られています。目を向けて見つけるのも楽しいですね。

(20)

10.佐久神社参道前石幢

所在地 河内字窪 226 番先



○六地藏石幢(正徳3年1713)

木禾雲童子、林童子

石秋童子、幼身童女

六地藏菩薩

奉修 菩提爲

左右の七亜

于時正徳三癸巳年卯月吉日

河内村施主 武左衛門

○巡拝塔(正徳3年1713)

西國三十三所

坂東三十三所爲親菩提也

河内村

秩父三十四所百三十三所

于時正徳三年天巳四月吉日

施主 松山武左衛門

参道は、一般的に影響がある神社や、寺の周辺の自然発生した門前町とセットに認識されている場所も多く、どの範囲を「参道」と呼ぶかは場所によって異なり、それぞれの場所の慣習によります。狭義には、鳥居や山門などの結界内の通路のみを示しますが、広義には街道筋など人通りの多いところから寺社に至る道の全てを意味します。複数の参道が存在していた寺社も多数存在します。その場合、一番メインの参道は「表参道」などと呼ばれることが多い。東京の有名な表参道は明治神宮に至る道です。また、参詣のために街道筋が捻じ曲げられて寺社に近づいていたところなども、珍しくはなく、その捻じ曲げられた周辺の街道筋をも「参道」と呼ぶ場合があります。参道入口には今回のように、地藏堂や石幢、道祖神等が祀られていることが多いです。路端に立つ地藏は、道祖神と習合し、民間信仰になっていきます。(21)

11. 佐久神社

所在地 河内字宮窪 81 番

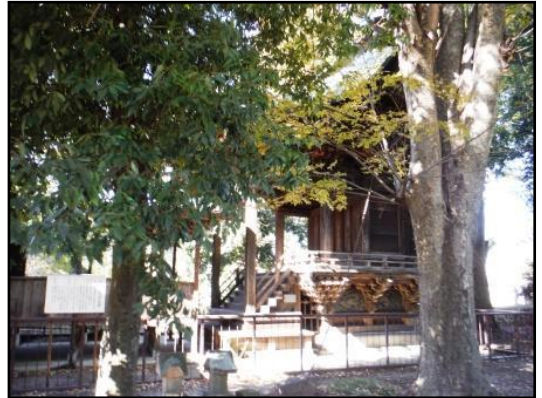
境内・五十坪

祭神・天手力雄命 磐裂神 根裂神

縁起・社記に、往古、当国一面湖水でありしころ、根裂の神 磐裂の神と相計りて、岩石を蹴裂き、水路を通したるにより、湖水次第に漏泄して浅きものは丘となり、深きものは沼となり、あるいは田畝となりて、民人繁殖して一國耕土の地となりたるよし、もって後人、この二神の徳を感載して、古く禹王の功に比し、その岩石を蹴裂きしところを「禹の瀬」と称し人の口に膾炙して今もその地名存するところなり。故に雄略天皇の御宇、この事あり。



○ 神楽殿



○ 本殿（県指定文化財）

○ 神楽殿（かぐらでん）とは、神社の境内に設けた、神楽を奏するための建物。神楽堂のこと。

本殿と拝殿のヒミツ

みなさん、いつも拝んでいる場所に神様がいらっしゃると思いませんか？神社には、さまざまな建物があります。その中でも、神様に直接お参りするのための場所があります。

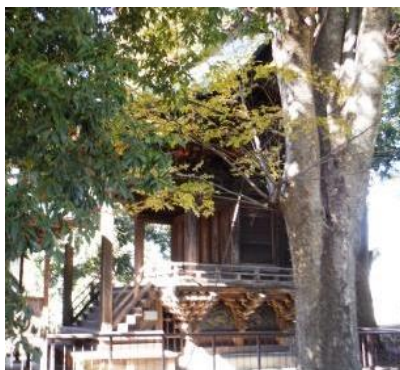
神社には神様が祀られているわけですが、その神様は御神体と呼ばれ、何らかの自然物などに宿っていて、その神様が宿っているものを安置しておく場所を《本殿》といいます。神社を神様のお屋敷とするなら、本殿は神様のお部屋ということになります。いつまでもこの地にご鎮座頂いて、末永くご加護頂くためのものです。

この本殿には宮司を除く、何人たりとも立ち入る事は禁じられています。宮司ですら、特別な場合を除き、安易に本殿への立ち入りはできません。なぜなら、御神体というのは直接見るものではないからです。神道では、見えない神様の存在を像にして拝礼対象にするということは、基本的にありません。なので、御神体には見えないものが宿っているわけです。そのため見る必要がないのです。その見えないものを心で感じ感謝し、祈る事にこそ意味があるのです。その本殿の神様へ祈りを捧げるために建立されているのが《拝殿》です。拝殿には昇殿参拝（神職に祈願をしてもらう）をするための空間と自由参拝をする場所とが設けられています。自由参拝を行う場所には、賽銭箱が設置されています。鈴は神社によって、ある場所とない場所があります。ある時には鈴を鳴らしてからお参りします。どちらで祈るのも同じ神様にお祈りしていることには違いありませんが、より近い場所になるのは昇殿参拝です。

また、拝殿はありますが、本殿は建立されていない神社もあります。これは御神体が山、大木、岩だったり、本殿を設ける事ができない、大き過ぎるものであったり、自然そのものであったりするからです。決して神様がいらっしやらないというわけではありません。この場合、御神体の正面に拝殿が建立されます。寺院では、このように参拝するところを別の建物で明確に分けたりはしません。



拝殿



本殿

MEMO

佐久神社境内には、 いろいろな石造物があります。

佐久神社は、南向きに新しい鳥居が建ち、境内は広いです。

そのため、いろいろな石造物があります。

境内北隅に、数本の木に囲まれた社殿があり、本殿が立派で、彫刻もとても美しいのが魅力です。ぜひご覧下さい。



要石

○要石は、甲斐の国の中央の印として置かれた石です。

この石には、お母さんが赤ちゃんを抱いて要石に座ると佐久神社の神様が赤ちゃんを守ってくれるという言い伝えがあります。



丸石猿田彦神

○丸石の猿田彦神があります。

(天保 15 年 1844)

天保甲辰秋九月河内郷上組中

※道祖神は、しばしば猿田彦神の信仰にも繋がっています。猿田彦は庚申信仰の神ですので、道祖神と庚申塔がいっしょに祀られているところも多いです。

12.補陀山昌隆寺

所在地 河内字宮窪 85

曹洞宗牛奥全応院末

本尊 観世音菩薩

縁起 由緒不詳天正元酉年（1573）3月10日創立、開山宗祖道元十五世の法孫実津文篤和尚。

堂宇 本堂 四間一三間 十二坪



写真

左○万霊塔 右○六地藏

写真の昌隆寺の六地藏は町内の六地藏の在銘年代で最も古いものになり、正徳3（1713）年に造られています。

万霊塔（ばんれいとう）とは・・・？

万霊塔は、寺や墓地の入口にあることが多いです。これは万霊塔が、他の石仏や石塔と違って、特定の信仰によるものではなく、いろいろな霊を供養するために造られた塔で、寺や墓地が現世とは違う異界であるという考えから、その境界に立てられたとも言われています。このことから、万霊塔の形や刻まれている文字は宗派によって様々で、三界萬霊、三界萬霊等、萬霊塔、萬霊、十界萬霊、法界萬霊、南無妙法蓮華経法界などがあります。

一般的には「三界萬霊等」と刻まれたものが多いですが、その三界とは、生命あるものすべてが生死輪廻する三種の世界、つまり欲界、色界、無色界のことです。

この地域のものは、ほぼ江戸時代です。

三界萬霊塔は、この世の生き物全ての霊をこの万霊塔自体に宿らせて、これを拝むことで供養する目的で立てられました。

（26）

13.小石和の丸石道祖神



見落としがちな
場所にあるよ！



14.妙智山延命院

所在地 小石和字後田 63

本尊 観世音菩薩

縁起 由緒不詳 記録によると、慶長 11 年（1606）3 月 18 日創立、開山一広和尚。

堂宇 三間四間十二坪

臨濟宗妙心寺派の寺院です。今の延命院は建てかえられたものなので、わりと新しい今風なつくりです。



地蔵とは・・・？

色々な仏の中にあり、「おじぞうさん」と呼ばれて最も親しまれている地蔵は、釈迦の入滅した後、弥勒（みろく）仏がこの世に出現するまでの長い無仏の間に、この世にあらわれて衆生を救う菩薩であると言われていています。地蔵信仰が日本に入ってきたのは奈良時代だと考えられていますが、平安時代になって末法思想が起こり、地獄というものへの恐れが説かれるようになり貴族や僧などを中心に信仰が広まって来ました。

そして、地蔵は極楽にいけるように導いてくれるという説や神仏への信仰の現世利益化というように庶民にも広く信仰されるようになります。

一般に地蔵は、頭を丸めて法衣をまとった姿をしています。これは、あまりにもいかめしい菩薩の姿では衆生が近づきにくいだろうという、大慈悲からきているそうです。ほとんどの像形は、右手に錫杖（しゃくじょう）をもち左手に宝珠姿が多く見られますが、石和町内では、合掌像が最も多く、他には小石和の成就院境内にあるものや砂原の禊（みそぎ）橋のたもとにあるもののように、自然石にただ「地蔵」とか「地蔵尊」とだけ刻んでいるものもあります。

地蔵には、色々な種類があります！

～怪我や病気の治癒を祈る石造物～

「味噌なめ地蔵」

「味噌なめ地蔵」は、怪我をした人が、自分の体の悪くなったところと同じ場所に味噌を塗り、治癒することを祈り、怪我や病気が治ったら「よだれかけ」を掛けて御礼のお参りをしたお地蔵さんのことです。いつごろからの風習かは、はっきりと分かりませんが、江戸時代にはすでに行われていたそうです。

(28)



笛吹市内「味噌なめ地蔵」の紹介です！

1. 八代町高家（市有形文化財指定）

幅約 75 センチ、奥行約 55 センチ、高さ約 25 センチの蓮華座（れんげざ）の上に、座高約 82 センチの地蔵が座っている石造地蔵菩薩座像（せきぞうじぞうぼさつざぞう）です。江戸時代の寛文 5 年（1665）7 月 14 日に、平十という人が尼僧のために建立したもので、いつ頃からか怪我をした人や病気になった人が味噌を塗ってお参りするようになったそうです。

2. 一宮町末木

石幢の幢身を祀ったもので、六地蔵の祀られているお堂の一番奥にあり、今でも味噌が塗られているそうです。また、よく見ると六地蔵口元にも味噌が塗られているそうです。今でも厚く信仰されているのが分かります。

3. 春日居町桑戸

地蔵ではありませんが、「おでにつちゃん」と呼ばれている「みそなめの 大日如来（だいにちにょらい）」が 4 体祀られています。戦国時代の（1555～1557 年）に、村人によって河原の砂の中から掘り出されたもので、「体の痛いところがあったら、同じところへみそをつけて祈れ」というお告げがあり、村人がその通り治ったという言い伝えがあるそうです。その後、地元の人達によりお堂が建てられ、厚く信仰されてきました。現在でも、多くの人々が味噌を塗り、病気や怪我を祈っています。

～県内で有名な味噌なめ地蔵～

正覚寺味噌なめ地蔵（北杜市須玉町若神子 2739）

昔、武田信玄公が信州で戦った時のこと、そこにあったお地蔵様を甲州に移そうと、お地蔵様に縄をかけて引いてきたそうです。ところが若神子の正覚寺の前まで来てどうにも動かなくなってしまったそうで。今でも、お地蔵様の背中には縄のあとだといわれるくぼみがあるそうです。いつの頃からか、身体の具合が悪いところとお地蔵様の同じところに味噌をぬってお祈りをすれば、病気が治るといわれ、それからは、味噌なめ地蔵というようになったそうです。今でも、お地蔵様には、味噌がたくさんぬられています。

MEMO

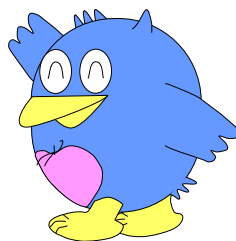




市川道は市川大門への諸道です。

- 1 石和からの道
 - 2 八代からの道
 - 3 芦川沿いの道
 - 4 西郡からの道（市外）
 - 5 竜王方面からの道（市外）
- と5つの方面からあります。

機会がありましたら、ほかも歩いてみてください。



てくてく古道を歩こう
市川道（富士見編）

笛吹市教育委員会
文化財課

TEL 055-261-3342

END